

令和5年度 第2回 都市計画サロン 報告

日時：令和5年10月24日（火）

参加者：16名

演題：「佐賀駅周辺のまちづくり」

講師：西 洋徳氏（佐賀市 都市戦略部 佐賀駅周辺整備室）

講演内容：

佐賀市は、都市規模は人口が九州で10番目と小さいものの、佐賀駅は人口1,000人あたりの乗車数が九州では博多駅に次いで2番目と多く、佐賀駅は市にとって非常に重要な施設となっている。そのような中、新たにSAGAサンライズパークの整備が起爆剤になり、来年度の国民スポーツ大会の開催、開催後のレガシーなど佐賀駅周辺の交流人口が増えることが見込まれている。また避難路指定に伴う中央大通りの再生などの背景もあり、佐賀駅を中心に街の南北軸を強化し、賑わいの波及効果を生み出すことをめざしている。

第1段階として駅前で営業していた西友の跡地利用が課題となっていたが、民間による開発が行われた。JAグループを中心に、直販店や観光・県産品情報発信拠点などが入居している。加えて2階にドラッグストア等が入居している。

第2段階として、まず駅前広場（北口）の再整備を行った。前回の国体開催のタイミングで整備しているが、当時の社会情勢から車中心の広場設計で、出入口が変則交差点になっており、非常にわかりにくいなどの課題があった。そこで、交通機能の再配置と出入口の一元化、待ち合わせ等に使えるスペースの創出など、再整備を行った。

次に南口の駅前広場についても再整備を行った。再整備前は駐車場とタクシープールに分かれており、車中心の広場となっているなどの課題があった。再整備により、イベント等にも使用できる広いスペースやベンチ、大屋根の整備などを行い、人が中心の駅前広場へと生まれ変わった。夜間帯は照明が空間を演出するなどの工夫も加えている。また、再整備後は広いスペースが市民、駅利用者の滞留空間として活用されるだけでなく、イベント等により賑わいを生み出す空間としても活用されている。こちらについては駅前広場としては珍しく、公の施設として条例制定を行ったうえで民間のノウハウを入れた指定管理者による管理によ

って運営を行っている。

続いて、市道三溝線、沿線施設の整備について紹介する。もともと4車線の道路であったが、空間再配分を行い、車道を2車線化し歩道の幅員を拡幅している。歩道の拡幅にあたっては高質化をおこない、ベンチの設置やプリント舗装、バナーフラッグの設置などを行っている。ほこみち指定区間の一部について、年内には特例区域の指定を受け、沿道の賑わいにつなげる予定である。佐賀市整備区間においては、道路区域外にも既存の建物を取得し改修した交流施設の整備や、ポケットパーク、交流スペースなど賑わいスペースの整備を行う計画である。なお改修に着手するまでは佐賀大学の学生による暫定利用を行うなど、先行的な活用も行っている。

南口についても道路（県道）の再整備を計画しており、今後は中心市街地への導線強化に向け、道路空間の再整備（車線数減少）により歩道拡幅等を行う計画である。再整備に先立って車線数現象・空間活用等の社会実験を行っている。

続いて第3段階として駅前という好立地条件にもかかわらず、低未利用地となっている西友駐車場跡地の民間開発の誘導である。地権者から一部の土地を市が取得するとともに、他の地権者と共同で敷地全体への民間開発を誘導する計画であり、サウンディング型市場調査を実施しているが、コロナ禍等により開発事業者の公募に至っていない状況である。

SAGAアリーナの開業により集客力が生まれており、来訪者を中心市街地へ誘導するなど様々な検討を行っている。また佐賀駅バスセンターについても複数の事業者のバスについて、行先別に乗り場の集約を行い、統一感のあるデザインへリニューアルを実施した。

意見交換：

駅前広場の交通処理や、にぎわいの創出など活発な意見交換がなされた。

（文責：福岡大学 田部井優也）

